



国際的な人材市場での競争力をつけよう

●
川合真紀 Maki KAWAI

自然科学研究機構 機構長, 日本化学会 元会長



2024年6月7日、国立大学協会が声明を發した¹⁾。「国立大学協会声明 一我が国の輝ける未来のために一」は国立大学をめぐる状況、とりわけ厳しい財政状況に関して、国民の理解を促し、将来に向けての決意を示すために發表された。30年ぶりに停滞していた日本経済が上向きに動き出した。政府が目標とする年2%の物価上昇、5%の賃上げが驚くべき速さで実現している。一方、「働き方改革」が発動され²⁾、24時間働きますか？の時代は終わり、ライフワークバランスを整え、多彩な人材が働ける社会を目指す動きも活発である。より多くの労働力を必要とする我が国の現状がある。

大学やそれを取り巻く研究機関の役割は、優れた研究成果を上げると同時に、多様な優れた人材を世に送り出すことである。人は国の礎であり、海外からも優れた人材が集い教育現場の活力を上げることが国の活力の源となる。大学は国際化をさらに進め、教育の質をさらに高め、この国に明るい未来を届ける役割を着実に継続する使命を負っている。大学を取り巻く環境を世界的な競争の中で維持することは、産業力の強化にも匹敵する、いやそれ以上の喫緊の課題である。我が国に限らず、先進国は皆、出生率の低いことが悩みである。一方で、大学卒業者の就職率が低いことが問題となる国もある。世界的に平滑化することで双方にとって意味のある状況が生まれる。国際的な人材マーケットで我が国が優位に立つことも視野に入れて、大学の在り方を問うべきではないだろうか。大学に集う学生にとって国際的に魅力ある大学とはどういうことだろうか。優れた教育を受けられること、大学時代の交友関係が将来の人的関係の礎になることなどが挙げられる。優れた教育を提供するには、優れた環境と優れた教員そして優れた大学運営が求められる。我が国でどれだけの大学が、教育を受ける者の立場に立った大学運営を最優先にしているだろうか？今改めて自らに問うことも必要であろう。将来の糧になるような交友関係を築く場を提供するには、世界中から優れた学生が集う場を提供することも1つの要素である。魅力ある大学の要素で最も大事なことは、優れた教員をそろえることであろう。そのためには国際的に見劣りしない待遇を整えることは不可欠である。

公務員給与は民間の水準を参考に定められる人事院勧告を基本として決められる。我が国の国立大学の多くは、様々な合理化努力や資金の多様化に取り組みつつも、資金不足のために教職員給与を据え置かざるを得ない惨状にある³⁾。公務員給与を決める基本であるこの勧告に従うことさえ困難な現状を放置してはいけぬ。

1) <https://www.janu.jp/news/17026/>

2) <https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000148322.html>

3) <https://www.ruconsortium.jp/introduction/cat4/seimei20240530.html>